

## 平成28年度 具体的な数値目標

新庄北高等学校最上校

	具体的な数値目標	分掌 学年	手立て・補足等
学力向上	1 学年の実態に応じて年間精勤率（※1）の向上と出席率98%以上を目指す。 ※1（1年30%、2年30%、3年30%）	教務 学年	保護者と連携し、健康的な生活のリズム（勉強を始める時間、寝る時間、起きる時間の固定）を確立させる。
	2 年5回（定期試験前～試験中）家庭学習時間を調査し、状況に応じて指導する。 （平日1時間・テスト前3時間以上を目指す）	教務 学年 進路	適切な生活のリズムを身につけさせるよう指導する。各教科で定期的に課題を課し、学習習慣を身につけさせる。 学期に1回以上職員室に質問に行く。 放課後や定期試験前に学習会を行うなど支援の機会を工夫する。
	3 朝学習を通年で実施し、教科毎（英語・一般教養）の到達度テストを年2回実施する。	教務 進路	朝から静かな環境で学習ができる習慣を身につけさせ、繰り返し学習させることで学習内容の定着を図る。
	4 シラバスを配付し、学期に1回以上学習計画と評価について生徒に周知しながら、見直しをもって学習に取り組めるよう指導する。	教務 Do More	ユニバーサルデザインの視点を取り入れ授業内容の「焦点化」「視覚化」「共有化」を図る。また、「わかる授業」から「力のつく授業」を目指し各自研究し、授業改善に取り組む。
	5 図書館利用の活性化と、貸出冊数一人平均4冊を目指す。	教務	図書委員会活動の活発化と館内の整理に努める。また、各HR担任・教科担当に対し授業での利用促進を働きかける。
進路指導	1 進路希望100%達成を目指す。 卒業生の離職率を把握する。	進路 3年	全教員で面接、小論文指導等を実施する。年度末に勤務状況を調査する。
	2 各種資格検定を勧め、卒業までに1つ以上3級以上の合格を目指す。	進路	漢字検定・ビジネス文書検定・英語検定・数学検定は3級以上、危険物取扱者三種、介護職員初任者研修などを受検させる。また、事前学習会を実施する。
	3 年2回以上の二者面談と年1回以上の三者面談を実施する。	3年 2年 1年	生徒理解、進路実現を目指す。
生徒指導	1 身だしなみの徹底	生徒	年3回以上の服装指導を行うとともに、教職員の共通理解の下、指導を行う。
	2 携帯電話に係る指導については、指導ゼロを目指す。	生徒	オリエンテーション等にて生徒への理解を促す。
	3 部活動の活発化を促すために、バドミントン部・卓球部の県大会出場及びスキー部の全国大会入賞を目指す。	生徒	積極的な活動を促す。
保健指導	1 LHR等において保健分野を学年2時間以上実施する	保健	保健的知識について学年に応じた啓蒙活動を積極的に行う。
	2 あすばら委員会（特別支援含む）をDo more事業の一環として充実したものにする。	保健	予定通り実施し、生徒がまっすぐぐんぐん伸びるような会の運営を心がける。
	3 保健委員会において昨年の活動に加え様々な取り組みを試みる	保健	保健委員の意識向上につながるようにする。
	4 年度当初4回のソーシャルスキルに加え生徒の実状にあったソーシャルスキルを進めていく。	保健	よい高校生活をスタートできるよう心がける。
地域連携	1 PTA総会の出席率60%以上を目指す。	総務	学年連絡網やマメール等を活用し、呼びかける
	2 運動会、文化祭への保護者の参加90%を目指す。	総務	評議員を通じて積極的に呼びかけ等を行う。
資質向上	1 一人年2回以上授業を公開し、参観した気づきや改善点等について共有する。また、年1回外部に向け公開授業研究会を開催し、「Do More プロジェクト」の研究成果を広く発信する。	教務	全教員が「授業のユニバーサルデザイン化」に向けて授業の改善に取り組めるよう、教務課より定期的に情報提供を行う。
	2 年2回授業評価（生徒・教科担当）を行う。	教務	集計し分析した結果を職員会議で共有する。また、授業ごとに集計結果を生徒にもフィードバックし、授業改善に努める。

※1 年間精勤率 = 各学年の生徒における精勤賞（年間で欠席0、欠時5時間以下）受賞者の割合

※2 ASP委員会 = あすばら委員会（生徒の心の健康の問題や特別な支援などについて話し合う委員会）